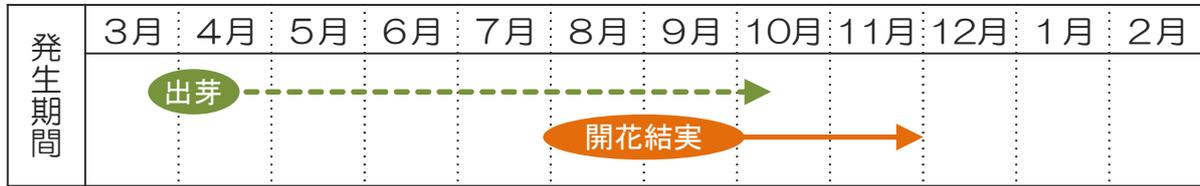


# オオブタクサ (別名クワモドキ)

キク科, 一年生



北アメリカ原産で、北米では大豆・トウモロコシの主要強害雑草である。本県では、河川敷の法面などにしばし群生が見られ、大豆ほ場においても、面積は大きくはないものの複数の地域で侵入が確認されている。



形態的特徴	<p>茎は太く直立し、上部で分枝する。葉は桑に類似し(ブタクサとは似ていない)、葉身は20~30cmで拳状に3~5に裂す(ただし丸葉型の個体も見られる)。茎も葉もざらつく。花は雌雄別で、長い花穂を形成する雄花の基部に雌花が着く。草丈は2~3mとかなり大きい。</p>
生態的特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種子が大きく、出芽期間が長い(県内大豆ほ場で10月に発芽確認)。</li> <li>・土中の種子寿命は20年以上で、出芽深度は2~16cmと大きい。</li> <li>・1株で5000個以上の種子が生産されるとの報告がある。</li> <li>・アレチウリと同様に、水系で種子が拡散していると考えられている。</li> </ul>
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非選択性を除いて除草剤の実用的な効果は期待できない。</li> <li>ただし、大豆バサグラン液剤(全面)は、処理後極多照・極高温時のみ子葉~4葉期で生育抑制効果がある。</li> </ul>
耕種的防除法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・侵入初期に、手取りや刈取りによる除草を徹底する。</li> <li>※ 刈取り後も残株から再生してくるので注意する。</li> <li>・ほ場周辺が種子源となっているので、ほ場周辺の防除を徹底する。</li> </ul>